

山形出羽守義晃とを申ける。遠く先祖を尋ねたる清和の支流足利尾張守高経の弟斯波伊豫守家兼の子按察使將軍修理大夫兼頼の高孫なり。後光嚴院の時宇延文元丙申歳八月六日將軍尊氏公より兼頼と出羽の國司に任せられ山形に入部して凶徒を鎮え成敗を司る。其二十四年康暦元己未歳六月八日逝去し終ふ法名光明峯寺と号す。夫より義晃迄は無廢絶八代より然るに時移り運衰へて國中催促し隨分を領地分僅よ山形中館の守護となり天の時を待ち地の利を

保つ。永禄四年丙申歳三月中旬義晃生年十六歳の時父出羽守義守公を伴ひ高湯とて山里に湯治し強ひきつゝ逗留の徒然の詠より兼將奮勇杯しなほむらゝ晚よりて歸り主従共々草臥る時節を近邊の強盜共見す。數百人會合して夜半に義守の旅宿へ推入をせし明を投入れ喚き叫んで切て入る近習の士も強盜と知らず敵意をこゝろしを得る箭を不意敢散々し防ぎ難し中より義晃は盜賊二人より手を負ひさせ大勢の後へ廻り其中の掃